

漁業協同組合員の力で外来魚ゼロへ！

コクチバス捕獲マニュアル



岐阜県水産研究所

目次

- I. はじめに 2
- II. コクチバスの習性 3
 - 1. 生息
 - 2. 産卵
 - 3. 性格
- III. 習性に合わせた捕獲 8
 - 1. 親魚を狙った産卵場での刺し網
 - 2. 淵での刺し網
 - 3. 見えバスを狙った刺し網
 - 4. 見えバスを狙った釣り
- IV. その他役立つ情報 27
 - 1. 産卵床の見つけ方
 - 2. オオクチバスとの見分け方

I. はじめに

水産研究所では、電気ショッカーや船を使わずにコクチバスを捕獲する方法について、調査を進めています。

これまでの調査結果をもとに、現時点で最も効果的と考えられる捕獲方法をまとめました。是非、参考にしてください。

ショッカーボートの駆除効果は高い！
でも・・・
維持費も人手もかかるし、船舶免許も必要...

もっと簡単に効率よく駆除したい！



Ⅱ. コクチバスの習性

1. 行動：流れが緩やかな場所を好む。 体の大きさによって行動が変化。

- 水通しの良い場所を好むが、瀬のような強い流れではなく、淵のような緩やかな流れの場所を選ぶ。

【全長25cm程度まで】

- 隙間のある大岩や頭大の石が集まったゴロタ場、テトラなどの構造物の近くにいることが多く、驚くと構造物の隙間に逃げ込む。

【全長25cmを超えると】

- 構造物への依存が減り、淵の中を回遊する。
- 驚くと泳いでその場から離れる

【季節による変化】

- 梅雨明け頃から岸近くでもよく見られる。
- 8月下旬から当歳魚も確認できる。
- 水温が下がる10月頃からは、目視での確認が困難。



回遊している大型魚



当歳魚

Ⅱ. コクチバスの習性

2. 産卵：5～6月に特定の場所で産卵し、オスが卵を守る。

【産卵（5～6月）】

- ・産卵期は水温が15℃を超えてから始まり、盛期は5～6月。
- ・水深約1mの、流れが緩やかな砂礫底を好む。

【産卵場所の特徴】

- ・川では淵尻付近の川岸や、流れがぶつかるテトラ・大岩の裏側。
- ・ダム湖では遠浅のワンド内でよく確認される。

【産卵行動】

- ・オスが砂や泥を除き、直径約50cmの浅いすり鉢状の産卵床を作る。
- ・産卵後、オスは外敵から卵を守る。
- ・産卵床の中心には3～5cm程度の小礫が集まっていることが多い。
- ・産卵床周辺には大石や流木などの障害物がある場合が多い。

Ⅱ. コクチバスの習性



淵尻の川岸にできた産卵床
(黄色破線内)



産卵行動中の雌雄
(黄色破線内)

Ⅱ. コクチバスの習性

3. 性格：警戒心が強く、学習能力が高い

- 刺し網で初回に多く捕れた場所でも、連続して仕掛けると、コクチバスが残っていても捕れないことがある。
- 刺し網を警戒して止まる個体や、川底と網の間隙をすり抜ける個体がいる。
- 30cm以上の大型個体は特に警戒心が強く、複数尾いる場所で1尾釣ると、残りはほとんど釣れなくなる。
- コクチバスとオオクチバスが同じ場所にいる場合、釣りではオオクチバスが先に掛かる傾向がある。
- 産卵床を守るオスも、人が岸に近づくと巣を放棄して沖へ逃げる。ただし、騒がなければ約5分で戻り、保護を再開する。

Ⅱ. コクチバスの習性



大型のコクチバスは警戒心が強い。

コクチバスが優占する淵で一番最初に釣れたオオクチバス



ダム湖で水深が浅くなったため放棄された産卵床
※産卵床への執着心はオオクチバスと比べると弱い

Ⅲ. 習性に合わせて捕獲

- コクチバスの習性を活用することで、効率的な捕獲が可能。
- 具体的には**5～6月の産卵期には産卵場で親魚を捕獲**し、コクチバスが活発に動き、人も川で活動しやすく**夏季には刺し網や釣り**で捕獲を行います。
(次ページの表を参照)

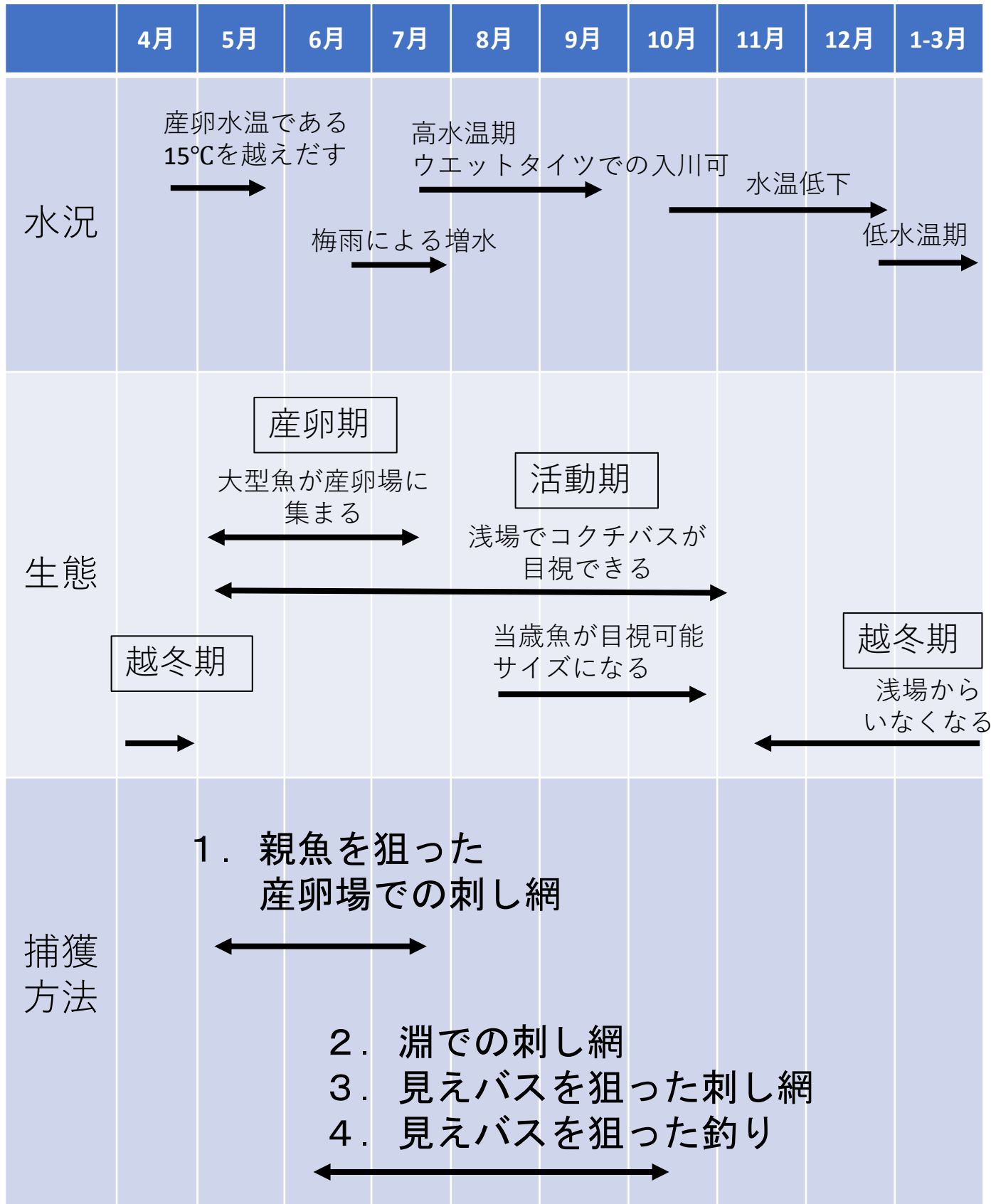


刺し網による捕獲



釣りによる捕獲

Ⅲ. 習性に合わせた捕獲



1. 親魚を狙った産卵場での刺し網

方法

- 淵尻の岸等、コクチバスが産卵床を作りそうな場所を踏査し、目視確認する。
- 産卵床、または30cm以上の大型のコクチバスを確認できれば、その周辺が産卵適地と判断する。
- 水深90-100cm程度の場所で、産卵適地とその沖側を仕切るように、刺し網を縦（流れの向き）に張る（図1, 2）。
- 刺し網の上流端は、沈子と浮子を2m程のヒモで結んだ流れ止めを沈め、浮子部に刺し網上流端を結び、刺し網が流れで倒れないようにする（図2参照）。
- 張る時間は昼間のみが良い。

Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

1. 親魚を狙った産卵場での刺し網



図1 刺し網を張るイメージ（外側からのイメージ）



図2 刺し網を張るイメージ（内側からのイメージ）

2. 淵での刺し網

方法

- 障害物が多い側の淵尻の駆け上がりに沿って刺し網を縦（水流の向き）に張る（両側とも障害物がある場合は両岸に張ってもよい）。
- 張る時間は網に付着するゴミや藻類の量を考慮して決める。
- 水深が3mまでの浅い淵では、チェストハイウェーダーで入れる90cm程度の駆け上がりから刺し網を張る。
- 水深4m以上の淵では、ウェットタイツを着用し、水深2m程度の位置から網を張った方がよい。
- 浅い淵ならば、最深部に沿って網を入れる方法も可能。
- 深い淵では、仕掛け時に危険が伴い、川底の障害物に網が引っ掛かると回収不能になる恐れがあるため、船を使った方が安全。

2. 淵での刺し網

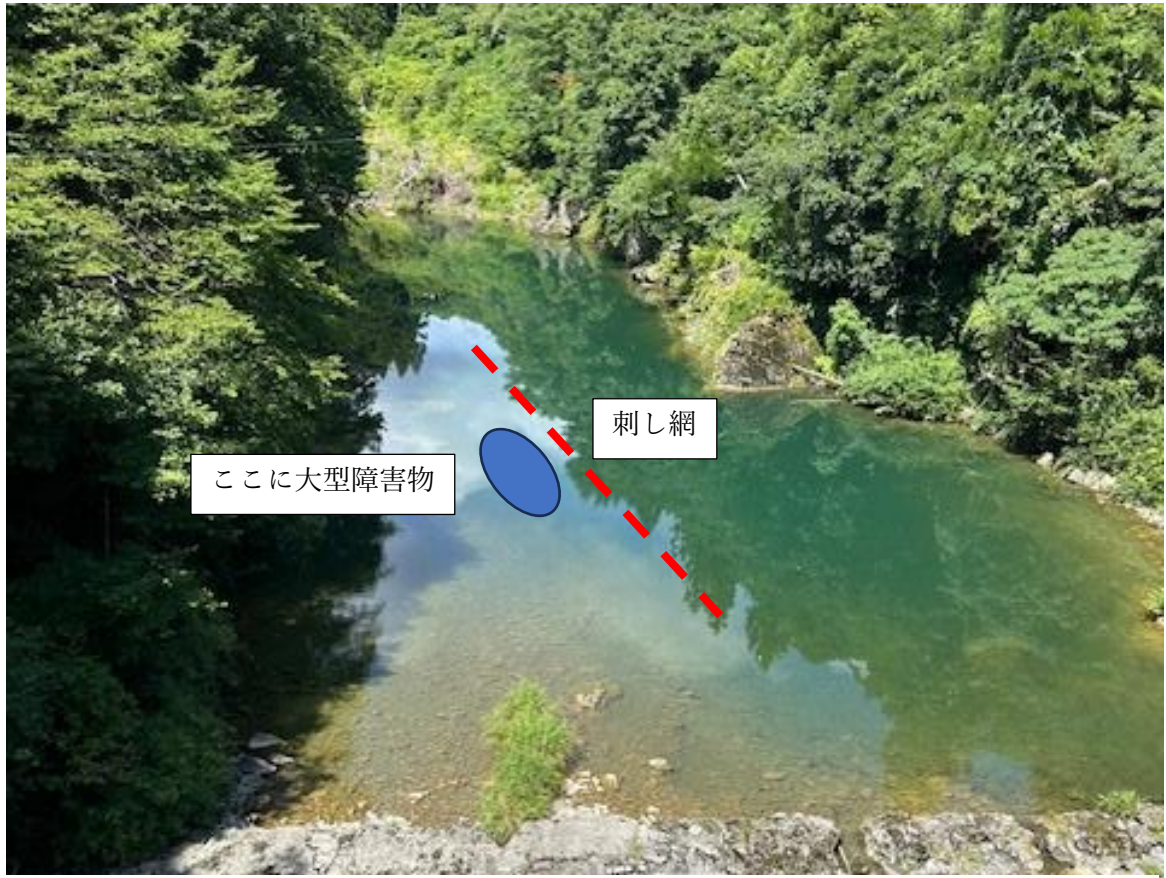


図1 淵での刺し網を張るイメージ（上からのイメージ）

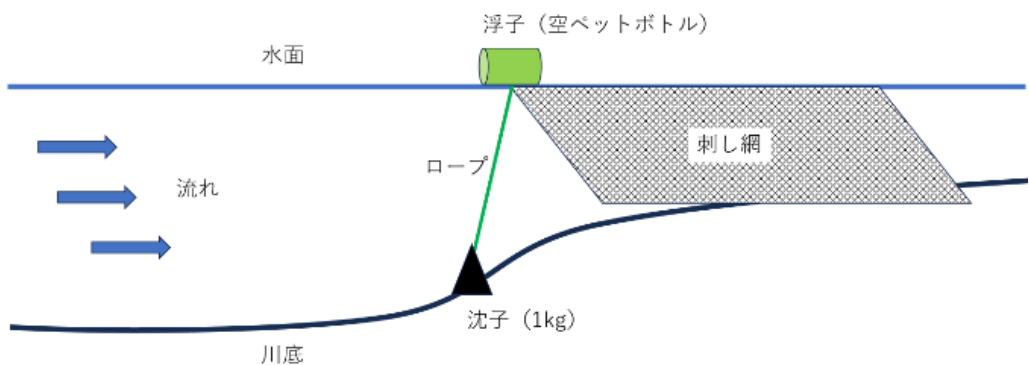


図2 淵での刺し網を張るイメージ（横からのイメージ）

3. 見えバスを狙った刺し網

方法

- 岸から見えるコクチバス（見えバス）を狙い、通常は張って待つ刺し網を積極的に動かして捕獲する方法。
- 見えバスが多く、入川が容易な夏場の暑い時期には効果的。
- 捕獲する場所に応じて、いくつかの方法がある。
(次ページの表を参照)



3. 見えバスを狙った刺し網

名称	必要人数	場所	備考
(1)地曳網式	・ 3名 (4名以上推奨)	・ 両岸は人の歩ける深さ(1.5mまで) ・ 最深部でも2m程度の淵やト口瀬 ・ 川幅は25mぐらいまで	規模が小さい川で、見えるバスがいるのなら、有効な方法
(2)巻き網式 A	・ 2名 (3名以上推奨)	・ 川底が平坦 ・ 人が立って網を巻くことができる浅場がある	
(3)巻き網式 B	・ 2名 (3名以上推奨)	・ 川底に障害物が多く、巻き切ることができない場所 ・ バスが川岸テトラの中に逃げている場合	テトラの中に逃げ込んだバスに有効な方法



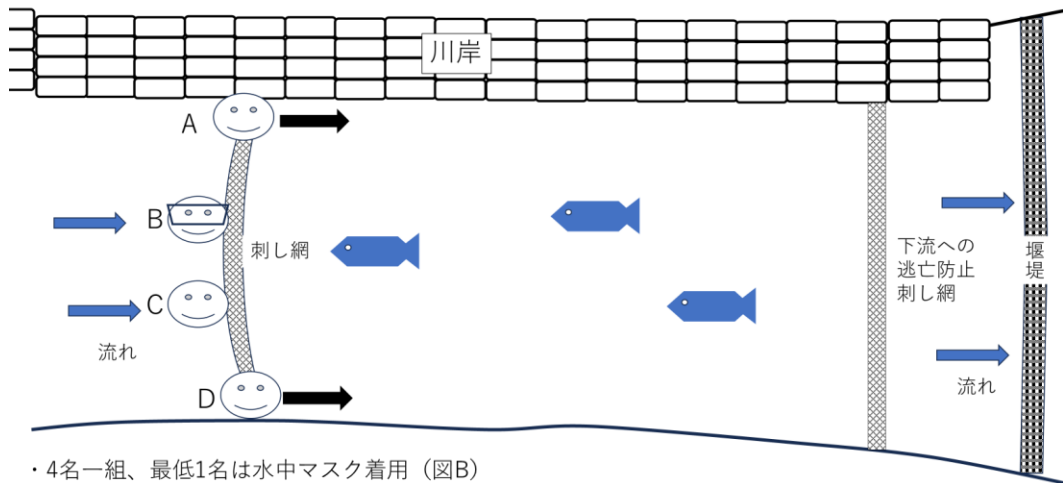
Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

(1) 地曳網式

方法

- 実施は最低3名で可能だが、川底への引っ掛かり等を考えると、4名で行う方が効率的。
- 刺し網を横（流れと並行）に張り、両端を2名がゆっくり下流へ曳く。
- 岩や流木に引っ掛かった場合は、残りの1～2名が外す。その際、潜ることがあるため、水中マスクが必要。
- 最後は、片側の岸まで網を巻き取るか、下流にも横網を張って挟むかの方法を取る。

刺し網を使った地曳網のイメージ



- 4名一組、最低1名は水中マスク着用（図B）
- AとDがゆっくり下流方向へ網を曳いていく。
- BとCは川底の石や木に網が引っ掛かったら外す。
- 途中魚が掛かった時はBとCが網から外す（友舟を用意しておく）。

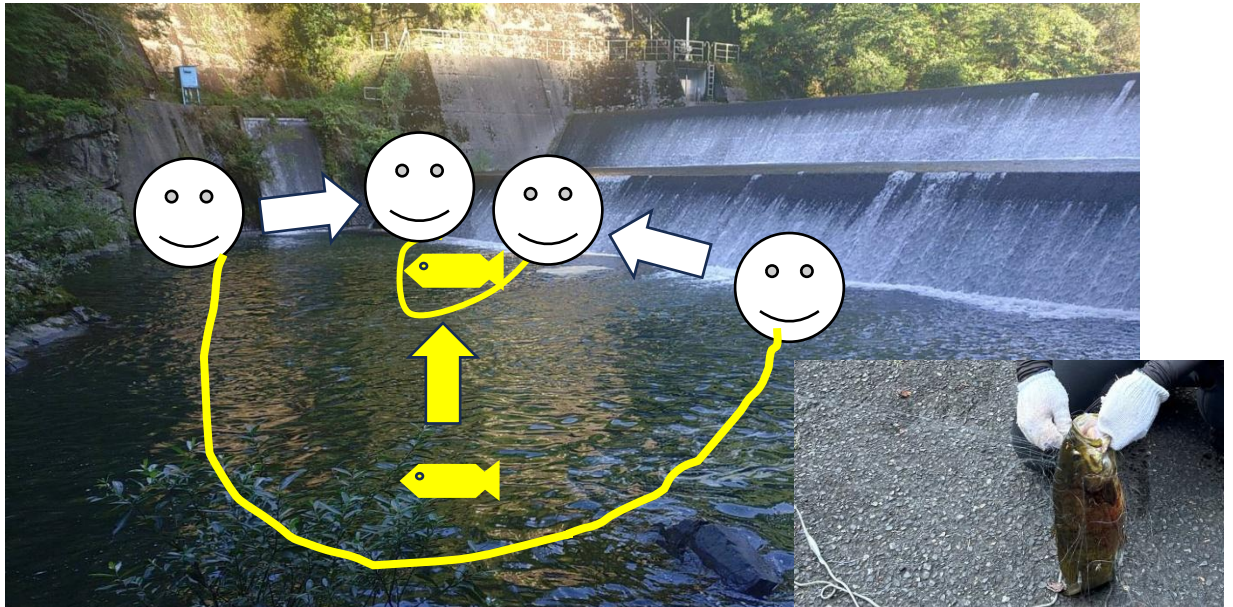


Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

(2) 巻き網式 A

方法

- 2名でも可能だが、3名で行う方が効率的。見えバスを囲むように刺し網を張る。
- 囲いを徐々に狭め、バスを追い込み刺し網にかける。



(3) 巻き網式 B

方法

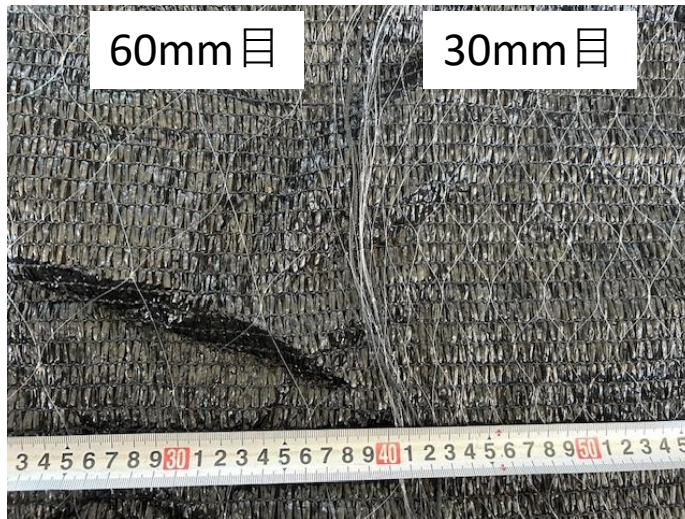
- 2名でも可能だが、3名で行う方が効率的。
- 見えバスを囲むように刺し網を張る。
- 囲いの中で潜水し、バスを刺し網に追い込むか、直接捕獲する。
- 川岸がテトラの場所では特に有効



○刺し網の注意事項

- 水産研究所では、目合い30mmと60mmの2種類の刺し網を使用。
【目合い30mm】：サイズを問わず捕獲できるが、40cm以上の大型魚は掛かりが浅く外れやすい。
【目合い60mm】：30cm以上の大型魚に効果的だが、20cm以下の小型魚はすり抜ける。
- コクチバスは川底に沿って移動するため、刺し網は川底に張るように設置する。
- 大型魚は昼間に、小型魚は夜間（朝夕を含む）に捕獲される傾向がある。
- 夜間の刺し網は昼間に比べ、他魚種の混獲が多くなるため注意が必要。
- 夕立による増水で網にゴミが絡み、使用不能になる恐れがあるので、事前に天気予報を確認しておく。

○刺し網の注意事項



○目合い60mm（写真左側）

- ・ 25～30cm以上の大型のバスに向く
- ・ 他魚種の混獲が少ない

○目合い30mm（写真右側）

- ・ サイズ問わず捕獲できるが、40cm以上の大型魚は掛かりが悪い
- ・ 他魚種の混獲も多い



混獲された他魚種
（ニゴイ等）



夕立による急な増水
によって、ゴミだらけ
になった刺し網

4. 見えバスを狙った餌釣り

- コクチバスは、もともと釣りを楽しむ目的で日本に持ち込まれた経緯がある。警戒心は高いが、餌に対して貪欲で、比較的釣りやすい一面がある。
- 特に、見えバスを狙った餌釣りは仕掛けが単純で、リールを使った釣りの経験があれば誰でもできる。
- 釣り方や餌は、全長30cm前後を境に少し異なる。

(1) 大型魚用(30cm～)

(2) 小型魚用(~30cm)



エビ餌での釣果

(1) 大型魚用(30cm～)

- リール竿を使用し、小魚（ウグイ、カワムツ等）やテナガエビを餌にして釣る。道具類は次ページの表1を参照。
- 見えているコクチバスの前に餌を泳がせる、または、送り込む。
- 全長40cmのコクチバスなら、全長20cmまでの魚を餌にできる（次ページの表2）。
- 餌の小魚は、練り餌を使ったウキ釣りで入手可能。小魚が見える場所なら、餌作りの時間含め、小一時間で十分な数が釣れる。
- テナガエビは小魚より嗜好性が高いが、当日の現地調達は難しいため、事前に釣りなどで入手しておく必要がある。

Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

(1) 大型魚用(30cm～)

表1 使用する道具

竿	リール	ライン	針
7～8ft(約2.1m)以上のルアーロッド (トラウトロッド、硬めのメバルロッド等)	スピニングリール(2000番から3000番)	・道糸：PE0.6-1号 ・ハリス：フロロカーボン1～2号ぐらい	ワーム用のマス針#1-6等

※基本的にオモリは不必要だが、トロ淵等流れがある場所では、コクチバスが深みにいるため、ガン玉等のオモリを使いコクチバスの目の前に餌を沈める。

表2 餌のサイズと釣れるコクチバスのサイズの関係

釣れるコクチバスの全長	40cm	35cm	30cm
餌の小魚の全長*	～20cm	～17cm	～15cm

※ウグイのような体高の低い魚の場合



竿とリール
(約2.1m・2500番)



餌のウグイ
(背掛け)

餌のテナガエビ
(尾部のちょん掛け)

(2) 小型魚用 (～30cm)

- 道具は餌に合わせて針のサイズが小さくなる程度で、大きな違いはない。詳細は次ページの表1を参照
- 餌はスジエビ（商品名：モエビ）、ミミズ、川虫などの活餌。特にスジエビはコクチバスの嗜好性が高く、最もおすすめ。
- シマミミズは入手が容易だが、コクチバスの嗜好性は低い。
- 見えているコクチバスの前に餌を送り込む。
- 餌を食べたら少し待ってアワせる。
- 全長15cmぐらいまでなら延べ竿（次ページ表1）のミヤク釣りでも釣れるが、大型が掛かると取り込みが難しい。

Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

(2) 小型魚用 (～30cm)

表 使用する道具

竿	リール	ライン	針
7ft以上のルアーロッド (トラウトロッド、固めのメバルロッド等)	スピニングリール (2000番から3000番)	・道糸：PE0.6-1号 ・ハリス：フロロカーボン0.8～1.5号ぐらい	ワーム用のマス針#4-6
延べ竿5.3～7.0m	—	・ナイロンかフロロカーボン0.8～1号	・渓流用やチヌ・グレ針

餌の付け方



エビ (尾部を
ちょん掛け)

小さい場合2尾
掛けでもOK

シママミズ



トビケラ等の川虫も現地調達可能な餌として有用。ただし、コクチバスの嗜好性はミミズと同じ程度で高くない。

○餌釣りの注意事項

- 見えているコクチバスが餌に反応しなくなったら、その場で粘らず場所を変える。
- 岸に人の気配を感じると警戒心が高まるため、できるだけ静かに釣る。
- 小魚を餌にした泳がせ釣りでは、食いついてもすぐアワせず、完全に飲み込むまでじっくり待ってからアワせる。
- 見えバスがいない場合、水通しの良い障害物が多い場所で釣る。アタリがなければ場所を移動する。
- ルアー釣りは餌の入手に困らない反面、餌釣りよりも釣果が明らかに落ちる。また、釣り人による釣果の差が極端に大きい。



ルアー釣りは小魚・エビを使った餌釣りに比べ、明らかに釣果が落ちる。



Ⅲ. 習性に合わせた捕獲

○餌の入手について

- 活きエビは、県内の大型釣具店で取り扱っている。ただし、入荷していない場合もあるため、事前に電話で確認することをおすすめする。
- 愛知県の大規模釣具店でも活きエビを取り扱っており、小型ウグイを販売している店舗もある。
- 活きエビはおおむね40gで500円（税別）。釣果にもよるが、1名で5～6時間釣るには十分な量。
- ミミズで大型を狙う場合、シマミミズより大型のドバミミズがおすすめ。ただし、おおむね1箱で750円（税別）と高価で、内容量は約8尾と少ない。



釣りの餌（左：スジエビ 右：ウグイ）

IV. その他役立つ情報

1. コクチバス産卵床の見つけ方

【準備品】：偏光グラス、帽子、長靴、ウェーダー

【時期】：5～6月頃（産卵期）

【調査場所】

- ・川の場合は、淵尻の川岸や、テトラポッドの水衝部裏側など、流れが緩やかな場所
- ・ダム湖の場合は、遠浅のワンド

【条件】：水深50～100cm程度で、底質は砂礫底。大きな石などの障害物がある場所は特に注目

【産卵床の特徴】

- ・直径約50cmで、不自然に白くなっている。
- ・中心に直径3～5cm程度の小礫が集まっている。

【確認方法】

- ・その周辺に、体長25cm以上のコクチバスが泳いでいれば、産卵床と判断できる

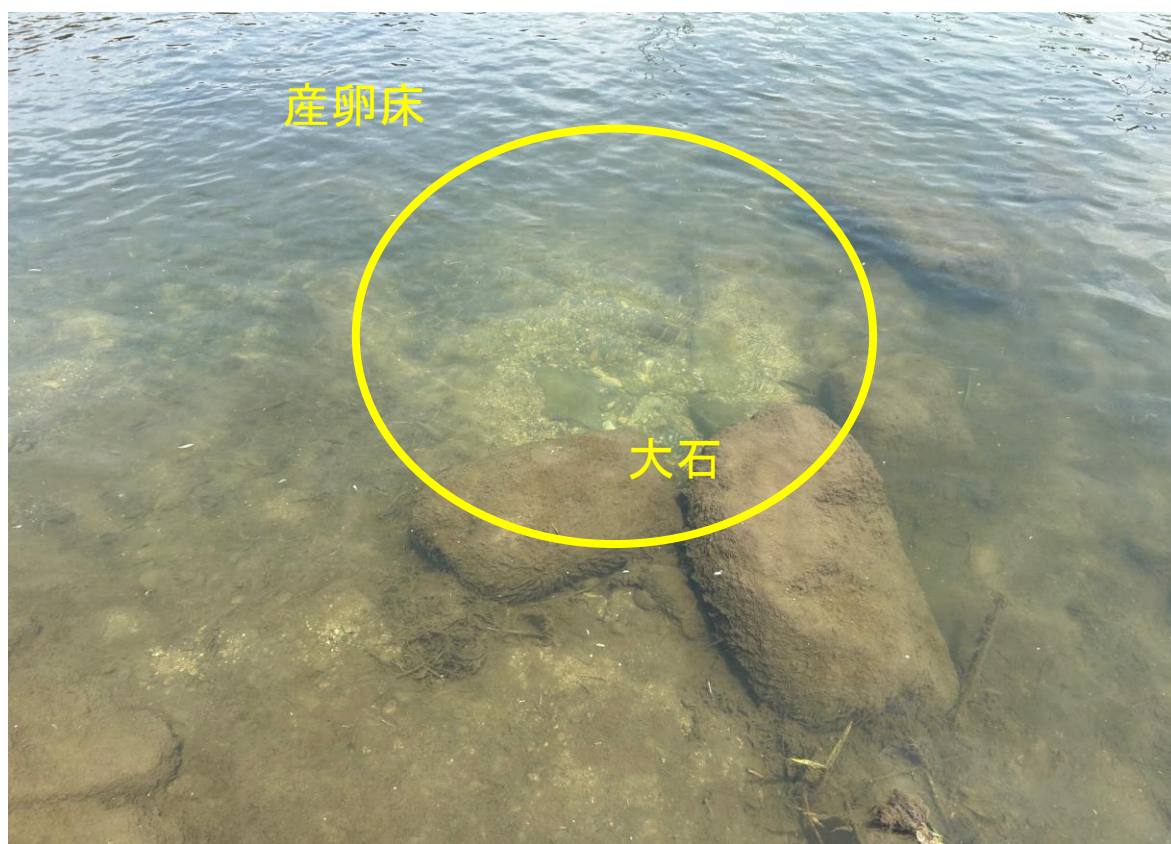
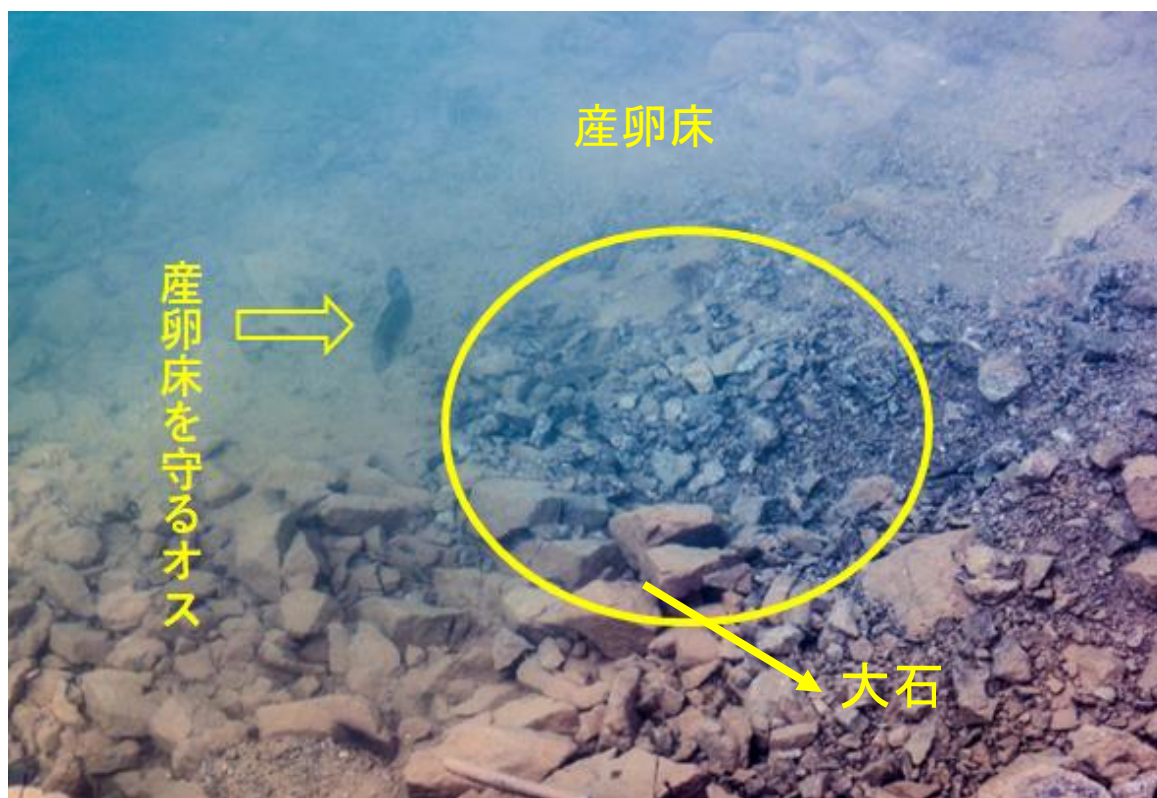


産卵床探索の様子

IV. その他役立つ情報

1. 産卵床の見つけ方

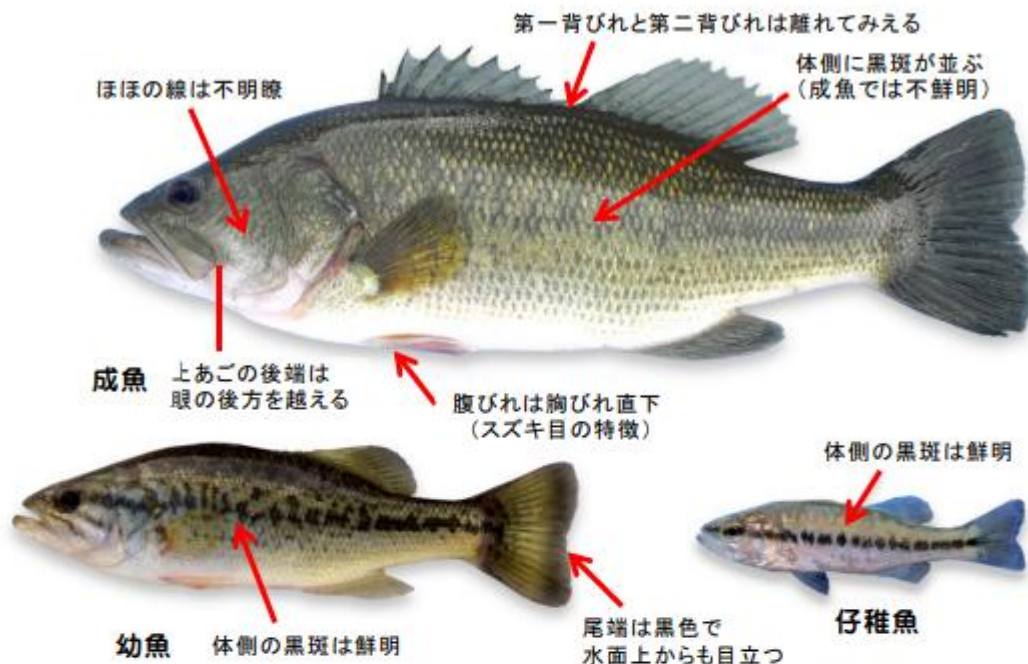
典型的なコクチバスの産卵床（黄色丸内）



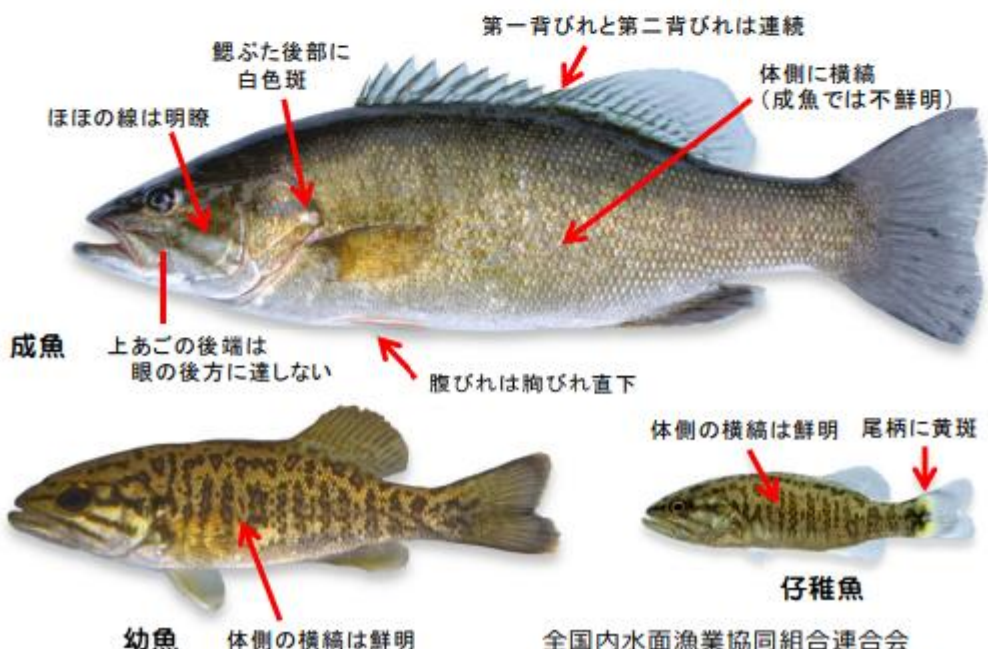
IV. その他役立つ情報

2. オオクチバスとコクチバスの見分け方

オオクチバス *Micropterus salmoides* サンフィッシュ科



コクチバス *Micropterus dolomieu* サンフィッシュ科



全国内水面漁業協同組合連合会
作成：外来魚被害防止対策検討委員会

全国内水面漁業協同組合連合会作成「外来魚4種の見分け方」より
<https://www.naisuimen.or.jp/jigyuu/bass.html>

※このページには他にも外来魚についてたくさんの情報が載っています。

漁業協同組合員の力で外来魚ゼロへ！

コクチバス捕獲マニュアル



岐阜県水産研究所

本書のPDFは、岐阜県水産研究所ホームページ内の「技術情報」ページに掲載しています。

岐阜県水産研究所 ホームページ
<http://www.fish.rd.pref.gifu.lg.jp/>

「ぎふすいさんけん」で検索
「岐阜水産研」

2026年 1月 5日 発行

漁業協同組合員の力で外来魚ゼロへ！
コクチバス捕獲マニュアル

発行 岐阜県水産研究所

〒501-6021 岐阜県各務原市川島笠田町官有地無番地

TEL : 0586-89-6352 FAX : 0586-89-6365